

会員だより

「四半世紀ぶりの大災害」 ～平成25年台風18号～



滋賀県土木交通部流域政策局
流域治水政策室防災チーム
主任技師 ^{かせぎわ} 紘澤 ^{まさき} 成希

1. はじめに

(1) 滋賀県の概要

滋賀県は日本のほぼ中央にあり、関西地方に属しながら、東海地方、北陸地方にも接しています。このため交通の要衝として栄え、古来には東海道、中山道や北国街道、現在も東海道新幹線や名神高速道路といった日本の大動脈が県内を通っています。

また、周囲を伊吹、鈴鹿、比良、比叡などの山々に囲まれ、中央に県の面積（約4,017平方キロメートル）の約6分の1を占める日本で一番大きな湖「琵琶湖」があります。

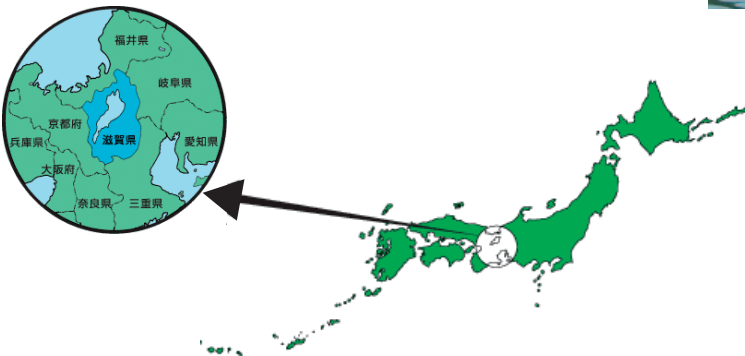
海の無い内陸県ではありますが、琵琶湖ではウインドサーフィンやカヌーなどの湖上スポーツも盛んで、冬には湖北・湖西でスキーもできます。春の桜、秋の紅葉の名所も数多く、四季を通じてスポーツや観光を楽しむことができます。



奥琵琶湖の入り江と桜



湖上での祭りの風景



滋賀県の位置

2. 自己紹介

私は平成18年に入庁し、初任地では道路改良事業を3年、次の事務所では道路保全事業を1年と砂防事業を2年担当してきました。平成24年より現在所属する流域政策局に配属となり、災害復旧事業や水防などを担当させていただいています。

会 員 だ よ り

後でも述べますが、滋賀県では近年災害が少なく、私は事務所勤務時代に災害復旧事業を担当した経験はありません。唯一記憶にあるのは、1年目に管内の道路法面が崩れ、担当は隣の係だったのですが、手伝いで写真撮影や災害査定でテープ持ちとして参加したくらいです。入庁して半年も経っていなかった私は、何をしたいのか、何をしているのかもさっぱりわからず、ただ担当されていた先輩が大変そうだなあと感じていただけでした。

現在の担当への異動がわかった時、災害の経験も、河川の経験すらない私に災害の担当ができるのか多少不安でしたが、まあどうせ滋賀県で災害はほとんど起こらないだろうと思い、気楽に赴任してきました。その予想は大外れとなるわけですが…。

3. 近年の災害状況

滋賀県は災害が非常に少ない県です。過去には台風などによる大災害もあったのですが、近年では平成14～23年の水害被害額が全国47位と、近隣の府県で大災害が発生しても、滋賀県だけは思

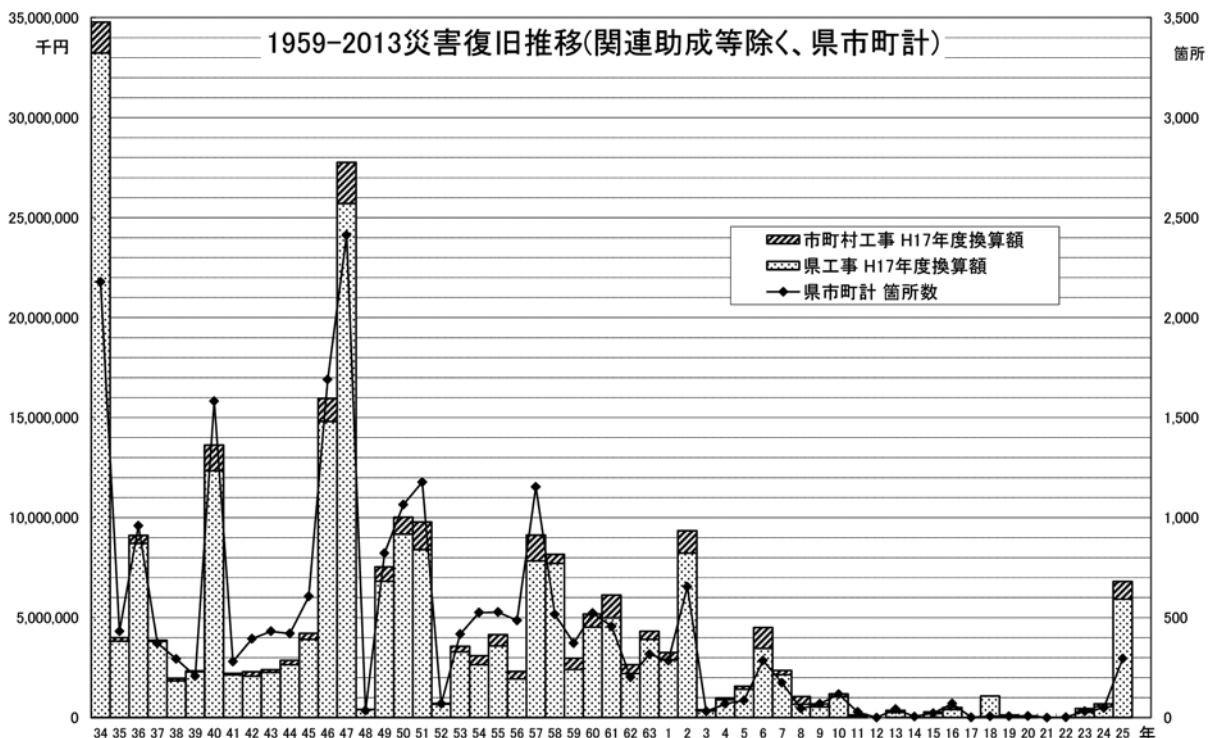
議と大した被害がなく、平和を享受してきました。

公共土木施設の災害復旧事業も、昭和の時代には毎年数百件・数十億円の採択が当たり前という状況でしたが、平成の初めごろからは平成6年の約300件、約45億円を最後に大きな災害もなく、特にここ10年は毎年数件ずつしかなく、0件の年もありました。

災害が少ないのはよいのですが、災害復旧の経験がある職員が若手では皆無となり、災害復旧事業に関するノウハウの伝承が全県的な課題といわれるようになっていました。

これが平成23年から少しずつ災害が増加傾向となりました。平成23年の災害件数は31件と、他県に比べると多くはありませんでしたが、査定は6次まで実施していただいています。

また平成24年には8月中旬に大津市南部から京都府宇治市にかけての集中豪雨により、甚大な被害が発生しました。被害は大津土木事務所の管内のみであり、非常に局地的な災害でしたが、1事務所で被害件数が30数件という、滋賀県としては近年考えられなかったような多さとなり、パニックのような状況となりました。



滋賀県の災害発生状況

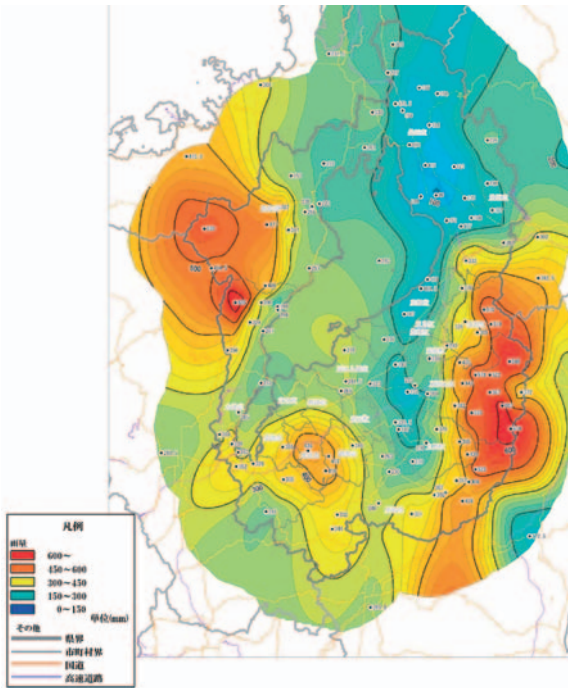
会 員 だ よ り

大騒ぎをしながらも、何とか査定をこなし、その他の査定をあわせて、平成24年は5次査定まで実施していただきました。2年間で合わせて11次の査定を受け、平成24年が終わるころには、滋賀県としては少し災害復旧事業の経験値が上がってきたのでは?と感ぜられるようになっていました。

4. 平成25年台風18号

1) 気象概要

9月13日に発生した台風18号は、滋賀県内では15日から16日にかけて豪雨をもたらし、16日5時5分には全国初の大雨特別警報が発表されました。大津市葛川では最大日雨量が360mm、最大時間雨量が62mm、連続雨量は635mmを観測し、また気象庁が滋賀県内に設置している12の雨量観測点の内、24時間は7点で、48時間では8点で観測史上最大雨量を記録するなど、県内の広範囲で戦後最大級といわれる記録的な雨量を観測しました。



平成25年台風18号 48時間雨量分布図

2) 県内の被害概要

この豪雨により、県内では各地で土石流が発生し、栗東市で1人がお亡くなりになりました。また15ある洪水予報・水位周知河川のうち9河川で

危険水位を超過し、栗東市の金勝川、高島市の鴨川では破堤に至りました。特に鴨川では数百軒が浸水し、逃げ遅れた人の救助のために自衛隊が出動するなど、甚大な被害となりました。これらの被害を受け、滋賀県では16日7時すぎに、29年ぶりに災害対策本部を設置しました。琵琶湖では全閉操作（唯一の流出河川である瀬田川の洗堰を全閉）が1972年以来41年ぶりに実施され、また鉄道や道路交通網も寸断され、一時は滋賀県が京阪神から孤立するという状況となりました。

被害は特に高島市と大津市に多かったものの全県的に発生し、8つある県の土木事務所・支所の全てで災害が発生しました。第2次、3次査定と、2週にわたり査定を受け、県および市町をあわせて289箇所、約67億円の採択を受けました（公園・



大戸川 被災状況

	第2次査定	第3次査定	合計
期 間	11/25~ 11/30	12/16~ 12/20	10日間
班 数	5	6	11
申 請 数	142	148	290
申請金額 (億円)	31.4	39.1	70.5



決 定 数	141	148	289
決定金額 (億円)	30.5	36.7	67.1

会 員 だ よ り

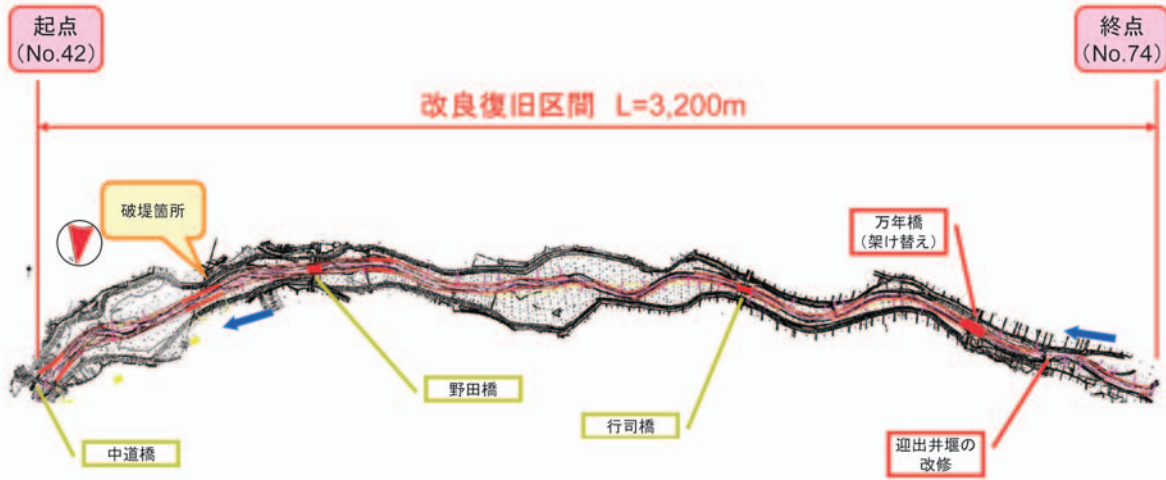


鴨川 被災状況



鴨川災害復旧助成事業 親災一覧

会員だより



鴨川災害復旧助成事業 平面図

下水道を含む)。他府県の大災害では1,000箇所を超えることもあります。本県としては、およそ四半世紀ぶりの大災害となりました。

3) 鴨川災害復旧助成事業

特に被害が甚大であった高島市の鴨川では、災害復旧助成事業を申請することとなりました。私は発災3日後に、とにかく助成を取って来いということで、高島土木事務所への応援（期間未定）を仰せつかりました。ここで困ったことに、滋賀県では平成2年に日野川と愛知川で採択を受けて以来、23年ぶりの申請となり、申請のノウハウは完全に失われていました。何をしたいのかわからず、とりあえず県庁の文書庫に当時の申請資料があるのを発見し、引っ張り出してみましたが、当然全て手書きの、現在では役に立たなさそうなものしかありませんでした。絶望感に浸りながら、近年助成事業の採択を受けている県の担当の方々に連絡を取り、申請書のデータなどをいただけることになりました。災害手帳や実務講義集などを何度も読み返しながら、以降、他のメンバーとともに査定（現地調査）を12月に受け、3月に事業を採択していただけることとなりました。

○決定概要

- ・事業費：18.7億円
(うち改良復旧費 12.0億円)

- ・復旧延長：L = 3.2km
- ・工事内容：大型連節ブロック A = 22,066㎡
 コンクリートブロック積 A = 15,398㎡
 堤防補強工 L = 134m
 橋梁工 N = 1橋 ほか

結局私は採択直前の2月まで、高島土木事務所へに居続けることとなりました。その間、東京に何度も出張しました。人生でこれだけ頻繁に新幹線に乗ることはもう無いのではないかと思います。本省での打合せが深夜に及んで、日付が変わってから上司・先輩と晩御飯兼飲みに行ったこともあり。とても印象に残る、密度の濃い時間を過ごしたように思います。

5. さいごに

災害復旧助成事業の採択に当たっては、国土交通省防災課の災害査定官、係長をはじめ、様々な方々に多大なるご指導・ご支援をいただきました。また普段より、経験の不足している本県では、国や他府県の方々にご迷惑をおかけしております。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

本県では現在も、台風18号からの復旧事業を鋭意進めているところです。近年風水害が増加し続けていますが、甚大な被害が発生しないよう、今後とも努力してまいります。